

2012/8/10

## 柏の景気情報（平成24年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年7月分）

○ 調査期間 : 平成24年7月23日 ~ 7月27日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	97	60.2%
建設	45	28	62.2%
製造	35	17	48.6%
卸・小売	44	35	79.5%
サービス	37	17	45.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年7月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIわずかに悪化 受注単価下降など不安材料あり ▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.8(前月水準▲28.8)となり、マイナス幅が▲1.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲22.2)、卸小売業▲48.5(同▲57.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲6.2)、建設業▲14.2(同▲13.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲29.0ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「地域ブランド化整備 個人戦から団体戦へ」(一般土木建築工事業)、「柏近郊での見積もりは新築工事よりリフォーム工事が増加。不況の影響か全面リフォーム工事で建て替えより少しでも安くしたい感があり、見積もりは増えている物の先行きの見通しは楽観視できない状況」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「受注は増えたが、短期に集中しており、協力会社様にもかなりの負担をかけている。とにかく、納期とコストが非常に厳しい。集中している分、これまでの取引先では足りない状況でもあるが、QCD評価をする時間すら無い」(その他の機械・同部品製造業)、「EUの経済不安から輸出の鈍化がみられる。又円高影響で引き続き値引き要請があり採算への不安がある」(一般産業用機械・装置製造業)、「仕事の情報は多いが受注まで時間がかかる。先が分からない」(建築用・建設用金属製品製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「家庭用の電気代の値上げが9月から確定し夏のボーナスの支給額もほとんど増えず今後ますます生活を切り詰めていかなければならなくなる。本当に必要なものしか買ってもらえなくなるのではないか」(その他の各種商品小売業)、「今月は入店客数の減少幅が大きい。売上は前年から同曜日比較をすと微増。セールの後ろ倒しの影響もあり、衣料品系が前年を若干上回って推移している。今後、周年企画のイベントも用意しているので、9月以降の集客にも期待したい」(百貨店)、「販売価格が依然と低く製造単価を割り込み赤字販売はできず新規は契約とならず売上減少となっている。大手メーカーは採算度外視のよう」

【サービス業】からは、「宿泊 競合他社の参入やスポーツ大会を含めた団体客の開催少なく又、ビジネスも弱く稼働、一室単価、売上共に対予算を大きく落とす。放射線の問題でジュニアのスポーツ大会の開催が少なくなったような気がする。宴会は、企業宴会は少なくなったものの協会・団体、同窓会等により前年並みの売り上げとなる」(ホテル)、「消費税値上げが近いということが報道されたことにより土地が動きだしました。相変わらず柏市外からのお客様はパタッと止まっています」(不動産管理業)の声が寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「早めにバーゲンに入った店ではそれなりの数字をつかったようだ。今後の心配はこの暑さが続くことと日中の客足が伸びない事と、残暑が続くと9月の数字が出ず秋物が飛んでしまうこと」(婦人・子供服小売業)、「13日から開催した百貨店のセール第二弾との波及効果や気温の上昇が後押しし、セール商材の消化に繋がった。月末に掛けては店頭をプロパー商品メインに打ち出し、晩夏物の早期実売に結びつけていく」(その他の各種商品小売業)、「気温の上昇に伴い店舗での売り上げが落ち込む。逆にイベント等の出店は昨年より売上増加」(菓子・パン小売業)、「最近の青果物は野菜は入荷減単価安の動き、果実みかんりんご大幅減少高値動向となり、それ以外は入荷増の安値推移し全体的に入荷量の減少、取扱高も大きく減少している。また猛暑が続き需要が減少、併せて学校が夏休みに入ったことも減少の要因になっている」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎受注単価下降

各業種から、「例年であれば夏休みに学校の耐震工事の受注が見られるが震災の影響なのか当社の専門工事は全くなくなってしまった。民間の工事については相変わらず材料の納期に問題があり、また受注金額も下がったままのため受けにくい状況にある」(石工れんがタイルブロック工事業)、「7月に入り、ゼネコンからの見積もり依頼が増えている。施工単位が安すぎて業者がいないのか、相見積もりは分からないが都内での工事物件は増えている。しかし施工単位は依然値下げを要求されている。採算的にはかなり厳しい状況である」(その他の職別工事業)、「売り上げが伸びているが「利益」出ない。受注単価の下落・外注費増加が大きな原因であるが、現有設備での生産が出来ない物もあり、外注費削減が難しい」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

◎節電

各業種から、「季節商品の動きはあるが工事関係の予算は厳しい。節電の為の相談が増えた」(電気工事業)、「畳は節電効果があるということで注文が増えつつあります」(内装工事業)、「温浴事業の水光熱費削減の為、ボイラーガス削減回収虎児、節電、節水改修工事を行った」(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
3月	▲20.3	▲9.6	▲21.7	▲35.2	▲10.0
4月	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲41.1	▲11.1
5月	▲28.4	▲24.1	▲17.6	▲35.4	▲33.3
6月	▲28.8	▲13.3	▲22.2	▲57.5	▲6.2
7月	▲29.8	▲14.2	▲11.7	▲48.5	▲35.2
見通し	▲34.0	▲21.4	▲35.2	▲42.8	▲35.2

見通しは今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.8(前月水準▲28.8)となり、マイナス幅が▲1.0ポイント拡大した。

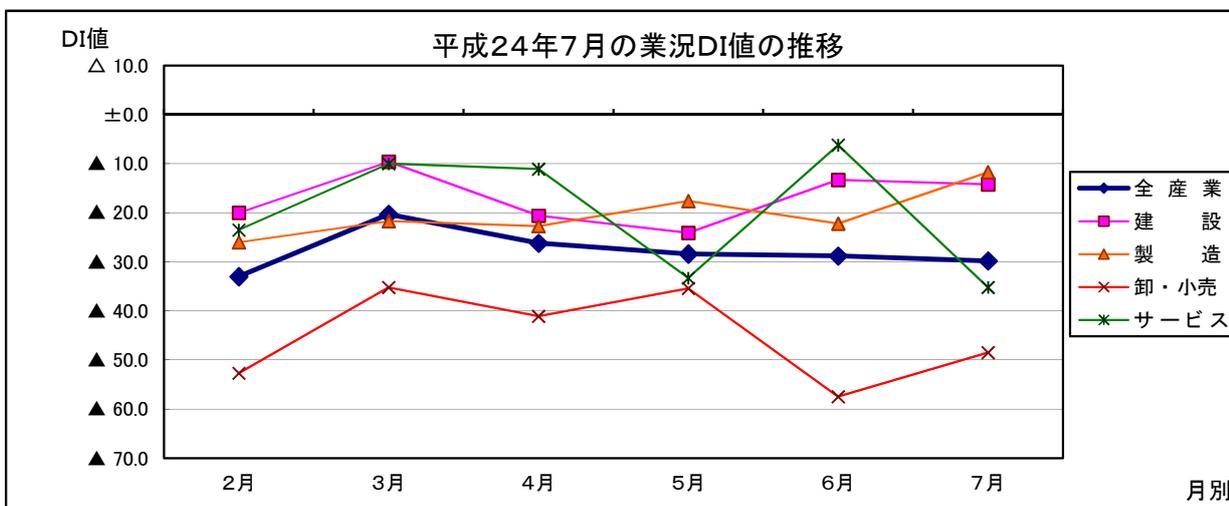
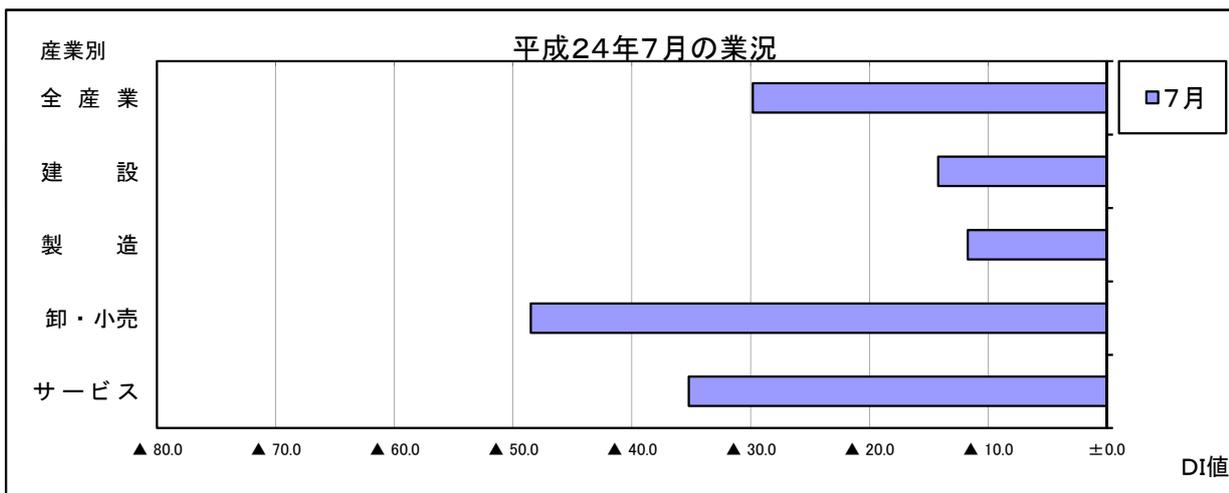
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲22.2)、卸小売業▲48.5(同▲57.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲6.2)、建設業▲14.2(同▲13.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲29.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.0(前月水準▲25.7)となり、マイナス幅が▲8.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲42.8(同▲51.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲5.5)、サービス業▲35.2(同▲18.7)、建設業▲21.4(同▲13.3)である。特に、製造業はマイナス幅が▲29.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲33.0	▲20.3	▲26.2	▲28.4	▲28.8	▲29.8	▲34.0(▲25.7)
建設	▲20.0	▲9.6	▲20.6	▲24.1	▲13.3	▲14.2	▲21.4(▲13.3)
製造	▲26.0	▲21.7	▲22.7	▲17.6	▲22.2	▲11.7	▲35.2(▲5.5)
卸・小売	▲52.7	▲35.2	▲41.1	▲35.4	▲57.5	▲48.5	▲42.8(▲51.5)
サービス	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲33.3	▲6.2	▲35.2	▲35.2(▲18.7)



【平成24年6月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.5(前月水準▲21.6)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小した。

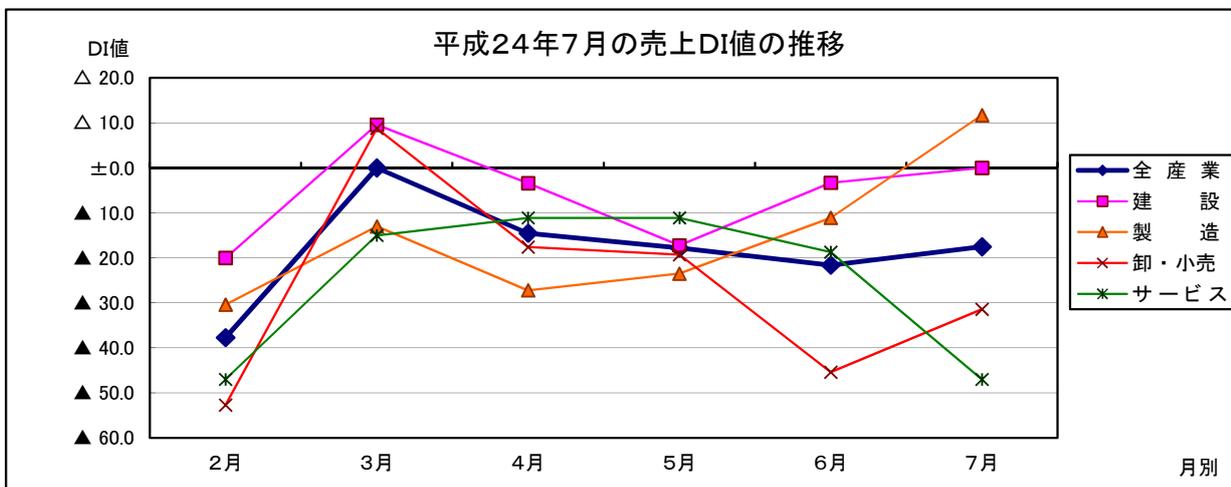
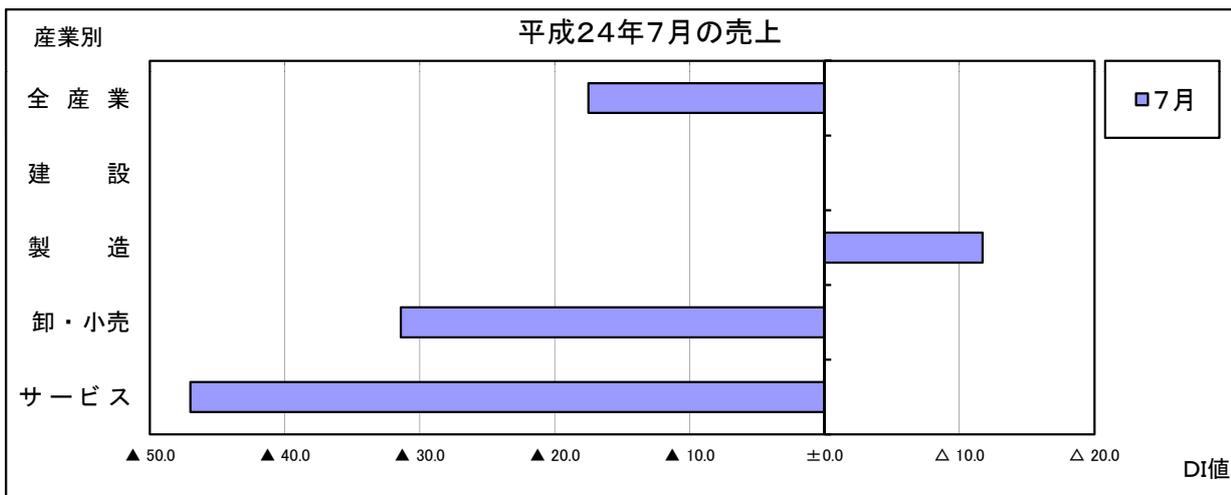
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業11.7(同▲11.1)であり、22.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.4(同▲45.4)、建設業±0.0(同▲3.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲47.0(同▲18.7)であり、マイナス幅が▲28.3ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.6(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が▲7.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業10.7(同▲3.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲34.2(同▲36.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同±0.0)、サービス業▲41.1(同▲12.5)である。特に、製造業はマイナス幅が▲35.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲37.7	±0.0	▲14.5	▲17.8	▲21.6	▲17.5	▲22.6(▲15.4)
建設	▲20.0	△9.6	▲3.4	▲17.2	▲3.3	±0.0	△10.7(▲3.3)
製造	▲30.4	▲13.0	▲27.2	▲23.5	▲11.1	△11.7	▲35.2(±0.0)
卸・小売	▲52.7	△8.8	▲17.6	▲19.3	▲45.4	▲31.4	▲34.2(▲36.3)
サービス	▲47.0	▲15.0	▲11.1	▲11.1	▲18.7	▲47.0	▲41.1(▲12.5)



【平成24年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.1(前月水準▲31.9)となり、マイナス幅が▲6.2ポイント拡大した。

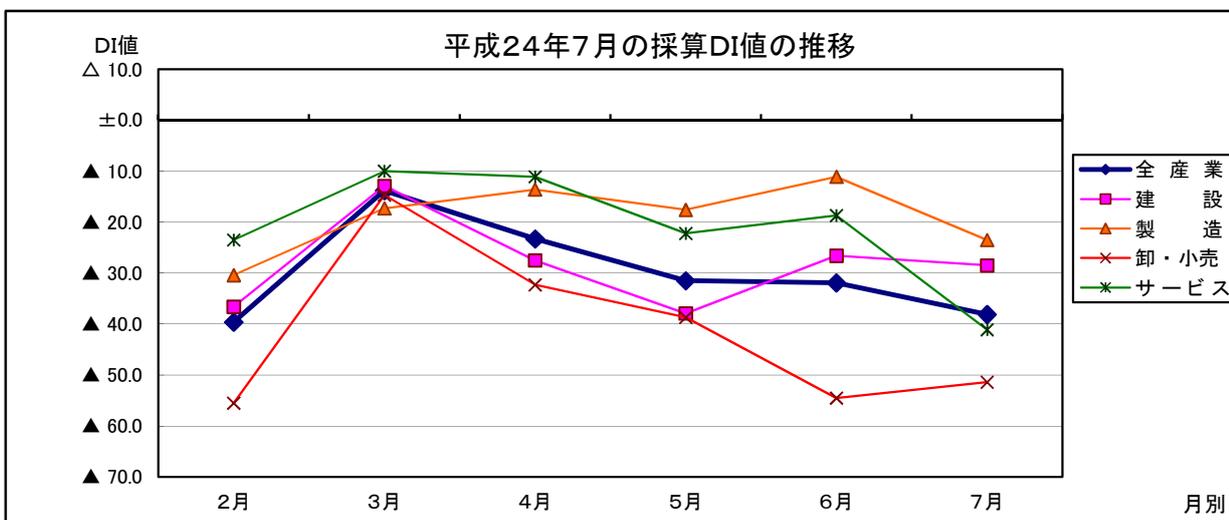
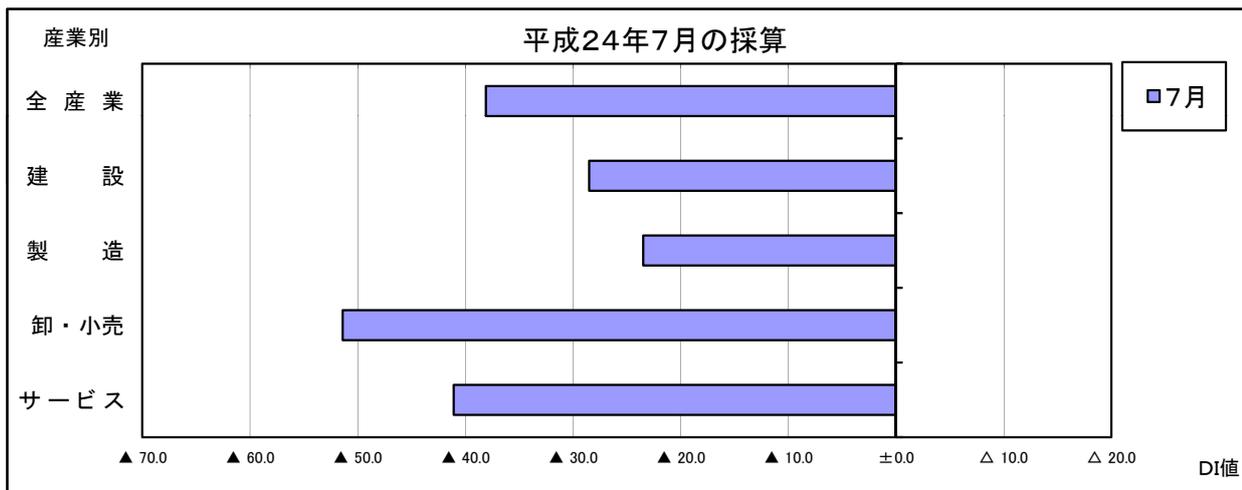
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲51.4(同▲54.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同▲18.7)、製造業▲23.5(同▲11.1)、建設業▲28.5(同▲26.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲22.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.8(前月水準▲25.7)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲23.3)、卸小売業▲34.2(同▲39.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲11.1)、サービス業▲35.2(同▲18.7)である。

平成24年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲39.6	▲13.8	▲23.3	▲31.5	▲31.9	▲38.1	▲27.8(▲25.7)
建設	▲36.6	▲12.9	▲27.5	▲37.9	▲26.6	▲28.5	▲14.2(▲23.3)
製造	▲30.4	▲17.3	▲13.6	▲17.6	▲11.1	▲23.5	▲29.4(▲11.1)
卸・小売	▲55.5	▲14.7	▲32.3	▲38.7	▲54.5	▲51.4	▲34.2(▲39.3)
サービス	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲22.2	▲18.7	▲41.1	▲35.2(▲18.7)



【平成24年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が1.0ポイント縮小した。

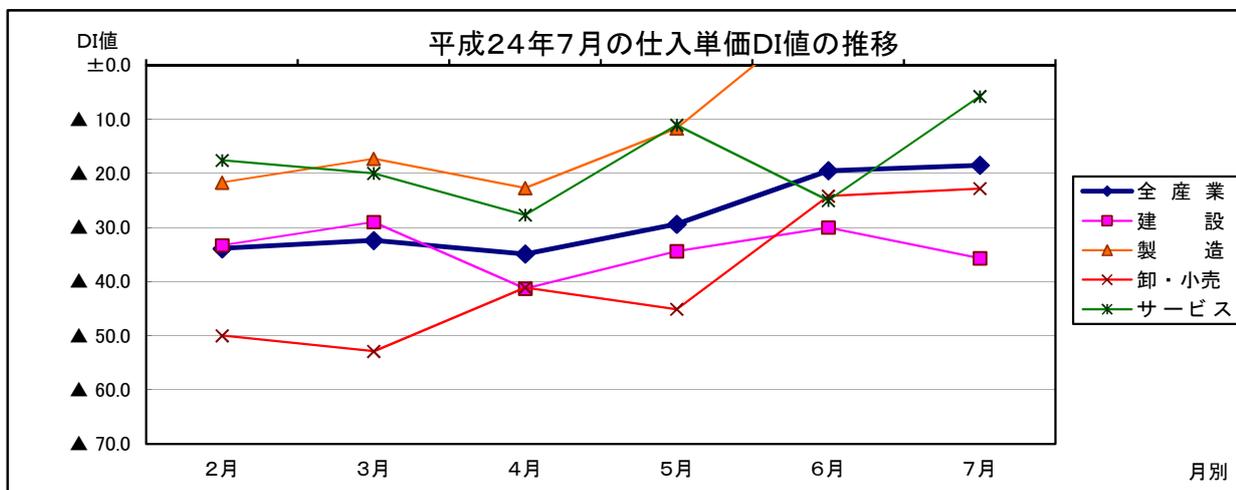
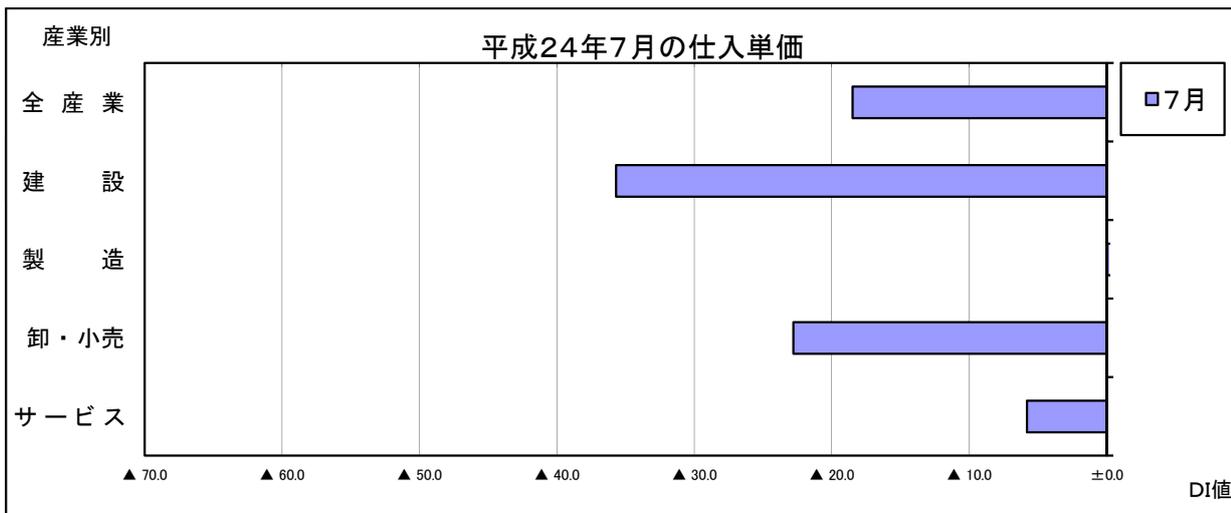
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.7(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.5(前月水準▲17.5)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲5.8(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲18.1)、建設業▲21.4(同▲20.0)、製造業▲11.7(同▲11.1)である。

平成24年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲33.9	▲32.4	▲34.9	▲29.4	▲19.5	▲18.5	▲19.5(▲17.5)
建設	▲33.3	▲29.0	▲41.3	▲34.4	▲30.0	▲35.7	▲21.4(▲20.0)
製造	▲21.7	▲17.3	▲22.7	▲11.7	△11.1	△5.8	▲11.7(▲11.1)
卸・小売	▲50.0	▲52.9	▲41.1	▲45.1	▲24.2	▲22.8	▲28.5(▲18.1)
サービス	▲17.6	▲20.0	▲27.7	▲11.1	▲25.0	▲5.8	▲5.8(▲18.7)



【平成24年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5. 1(前月水準2. 0)となり、マイナス方向へ▲7. 1ポイント拡大した。

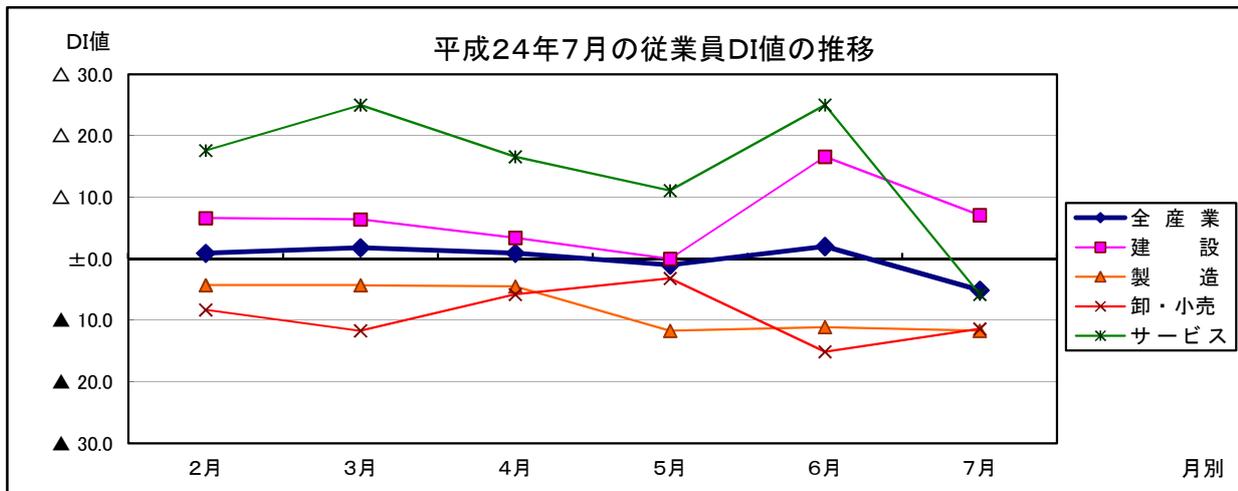
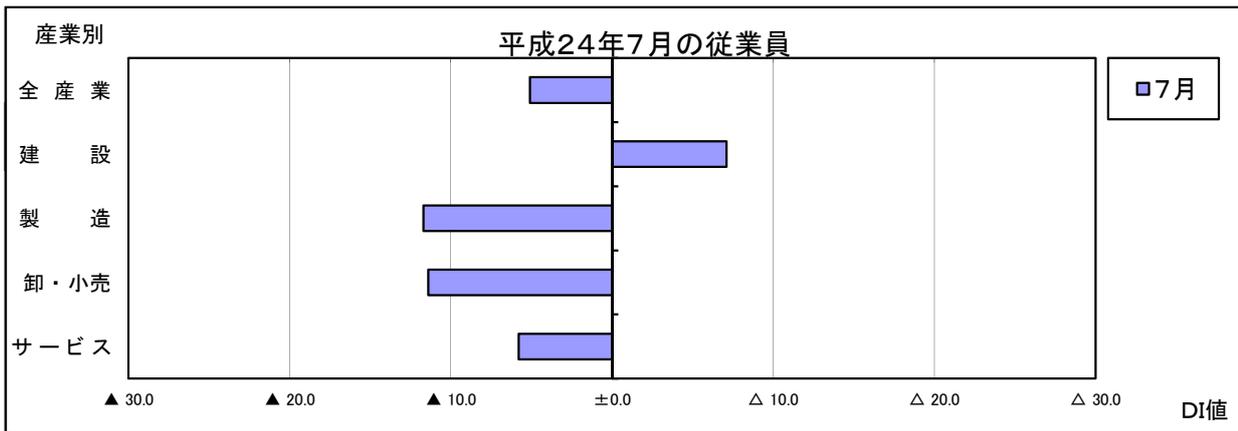
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲11. 4(同▲15. 1)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業7. 1(同16. 6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲5. 8(同△25. 0)であり、▲30. 8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11. 7(同▲11. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、±0. 0(前月水準1. 0)となり、プラス幅が▲1. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲8. 5(同▲12. 1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業11. 7(同18. 7)、建設業7. 1(同10. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲5. 8(同▲5. 5)である。

平成24年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△ 0.9	△ 1.8	△ 0.9	▲ 1.0	△ 2.0	▲ 5.1	±0.0( △ 1.0)
建設	△ 6.6	△ 6.4	△ 3.4	±0.0	△ 16.6	△ 7.1	△ 7.1( △ 10.0)
製造	▲ 4.3	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 11.7	▲ 11.1	▲ 11.7	▲ 5.8( ▲ 5.5)
卸・小売	▲ 8.3	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 3.2	▲ 15.1	▲ 11.4	▲ 8.5( ▲ 12.1)
サービス	△ 17.6	△ 25.0	△ 16.6	△ 11.1	△ 25.0	▲ 5.8	△ 11.7( △ 18.7)



【平成24年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.3(前月水準▲16.4)となり、マイナス幅が6.1ポイント拡大した。

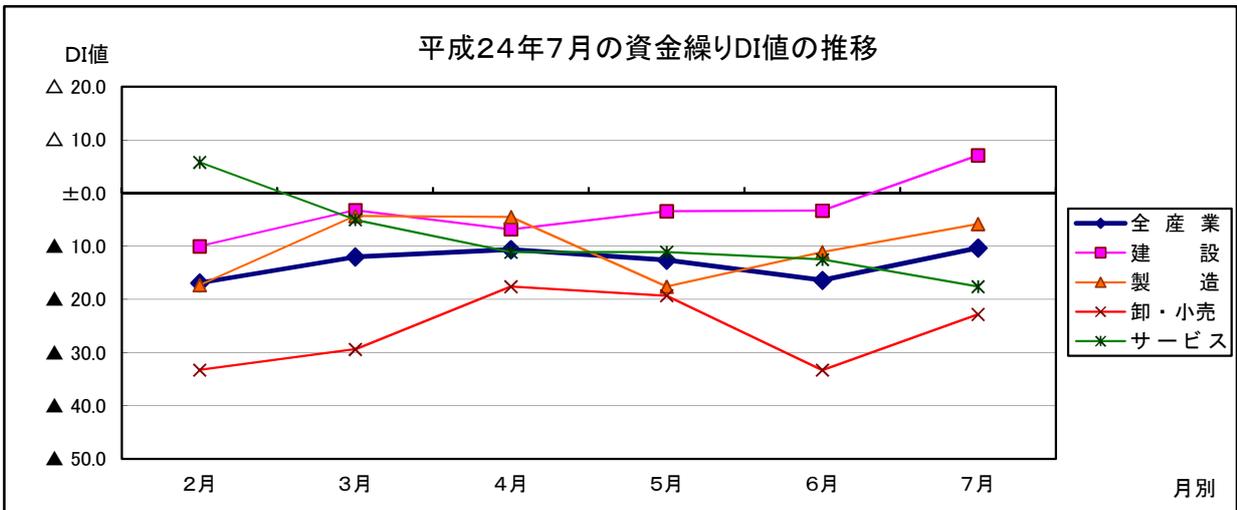
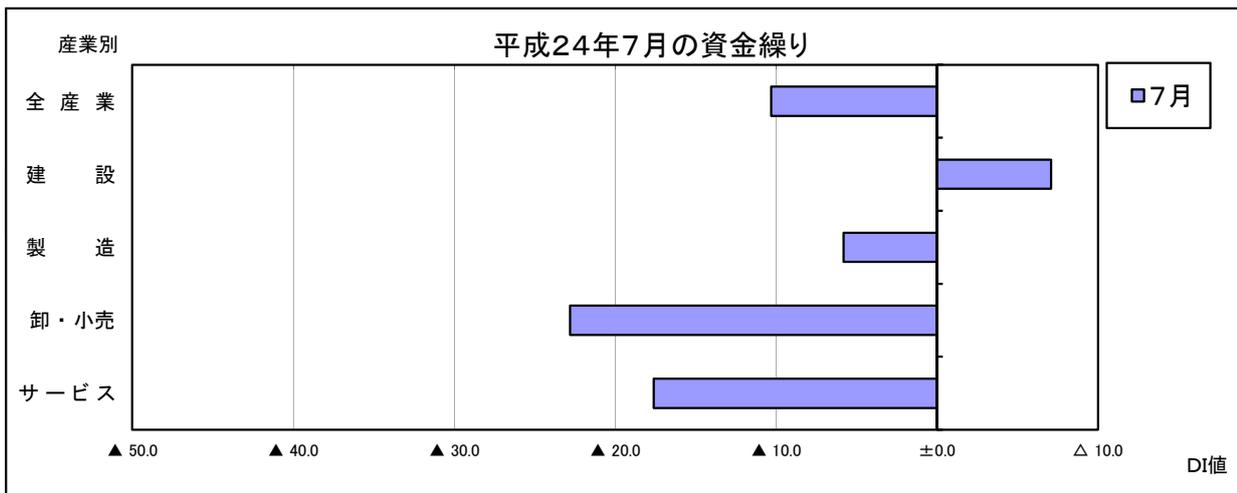
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業7.1(同▲3.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲22.8(同▲33.3)、製造業▲5.8(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲17.6(同▲12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が5.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲22.8(同▲42.4)、サービス業▲11.7(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲11.1)、建設業▲3.5(同▲3.3)である。

平成24年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲16.9	▲12.0	▲10.6	▲12.6	▲16.4	▲10.3	▲14.4(▲19.5)
建設	▲10.0	▲3.2	▲6.8	▲3.4	▲3.3	△7.1	▲3.5(▲3.3)
製造	▲17.3	▲4.3	▲4.5	▲17.6	▲11.1	▲5.8	▲17.6(▲11.1)
卸・小売	▲33.3	▲29.4	▲17.6	▲19.3	▲33.3	▲22.8	▲22.8(▲42.4)
サービス	△5.8	▲5.0	▲11.1	▲11.1	▲12.5	▲17.6	▲11.7(▲12.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.5	▲ 22.6	▲ 38.1	▲ 27.8	▲ 18.5	▲ 19.5	▲ 5.1	±0.0
建設	±0.0	△ 10.7	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 35.7	▲ 21.4	△ 7.1	△ 7.1
製造	△ 11.7	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 29.4	△ 5.8	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 5.8
卸・小売	▲ 31.4	▲ 34.2	▲ 51.4	▲ 34.2	▲ 22.8	▲ 28.5	▲ 11.4	▲ 8.5
サービス	▲ 47.0	▲ 41.1	▲ 41.1	▲ 35.2	▲ 5.8	▲ 5.8	▲ 5.8	△ 11.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.8	▲ 34.0	▲ 10.3	▲ 14.4
建設	▲ 14.2	▲ 21.4	△ 7.1	▲ 3.5
製造	▲ 11.7	▲ 35.2	▲ 5.8	▲ 17.6
卸・小売	▲ 48.5	▲ 42.8	▲ 22.8	▲ 22.8
サービス	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 17.6	▲ 11.7

【平成24年7月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種	
建設	地域ブランド化整備 個人戦から団体戦へ	地域ブランド	一般土木建築工事業	
	例年であれば夏休みに学校の耐震工事の受注が見られるが震災の影響なのか当社の専門工事は全くなくなってしまった。民間の工事については相変わらず材料の納期に問題があり、また受注金額も下がったままのため受けにくい状況にある	震災の影響 受注単価下降		石工れんがタイルブロック工事業
	季節商品の動きはあるが工事関係の予算は厳しい。節電の為の相談が増えた	季節商品 節電		電気工事業
	7月に入り、ゼネコンからの見積もり依頼が増えている。施工単位が安すぎて業者がいらないのか、相見積もりは分からないが都内での工事物件は増えている。しかし施工単位は依然値下げを要求されている。採算的にはかなり厳しい状況である。柏近郊での見積もりは新築工事よりリフォーム工事が増加。不況の影響か全面リフォーム工事で建て替えより少しでも安くしたい感があり、見積もりは増えている物の先行きの見通しは楽観置は節電効果があるということで注文が増えつつあります	見積もり増加 施工単価値下がり 不採算 リフォーム工事増加 先行き不安		その他の職別工事業
製造	受注は増えたが、短期に集中しており、協力会社様にもかなりの負担をかけている。とにかく、納期とコストが非常に厳しい。集中している分、これまでの取引先では足りない状況でもあるが、QCD評価をする時間すら無い。	節電 受注増加 短納期		内装工事業 その他の機械・同部品製造業
	EUの経済不安から輸出の鈍化がみられる。又円高影響で引き続き値引き要請があり採算への不安がある	EU経済不安 円高の影響		一般産業用機械・装置製造業
	仕事の情報は多いが受注まで時間がかかる。先が分からない	先行き不安		建築用・建設用金属製品製造業
	売上げが伸びているが「利益」出ない。受注単価の下落・外注費増加が大きな原因であるが、現有設備での生産が出来ない物も有り、外注費削減が難しい。先行きも仕事量は有る程度確保出来る見通しで有るが、利益に直結するか不透明です。	売上増加 不採算 受注単価下降 先行き不透明		紙製容器製造業
卸小売	7月に入り、大型店のバーゲンが昨年比半月ほど遅れて入り、競争が激化した。早めにバーゲンが入った店ではそれなりの数字をつかったようだ。今後の心配はこの暑さが続くと日中の客足が伸びない事と、残暑が続くと9月の数字が出ず秋物が飛んでしまうこと	バーゲン遅れ 競争激化 天候の影響		婦人・子供服小売業
	家庭用の電気代の値上げが9月から確定し夏のボーナスの支給額もほとんど増えず今後ますます生活を切り詰めていかなければならなくなる。本当に必要なものしか買ってもらえなくなるのではないか	電気代値上げ		その他の各種商品小売業
	今月は入店客数の減少幅が大きい。売上は前年から同曜日比較をすると微増。セールの後ろ倒しの影響もあり、衣料品系が前年を若干上回って推移している。今後、周年企画のイベントも用意しているので、9月以降の集客にも期待したい。	客数減少 売上微増 衣料品好調 集客イベント		百貨店
	商店会のポイントセールの際は売上が上がる。お客様は費用対効果を計算し、何らかの利益は無いと買い物はしない。	ポイントセール 費用対効果		書籍・文房具小売業
	7月初旬はセール前の買い控えが顕著で売上・客数ともに低調な出足となった。5日からセールを開催。立上りが他競合と同日だったこともあり、期間中入店客数は昨対98.0%と前年を下回ったものの、衣料品店舗で買上点数を伸ばした店舗が牽引し、期間中売上昨対は100.6%と前年を上回った。13日から開催した百貨店のセール第二弾との波及効果や気温の上昇が後押しし、セール商材の消化に繋がった。月末に掛けては店頭をプロパー商品メインに打ち出し、晩夏物の早期実売に結びつけていく	買い控え セール開催 衣料品好調 売上増加 天候の影響		その他の各種商品小売業
	業界的には飲食店が比較的苦戦しているの、本来であれば食品小売業は良いはずなのに、低迷が続いており、それは間違いなく大手の低価格競争に巻き込まれているからデフレで売上げが下がっているのだと思う。	飲食店苦戦 食品小売低迷 価格競争 デフレ		各種食料品小売業
	TPPに関して、もし始まったとしたら安い商品が日本を襲い、さらなるデホットスポットの話題が少しは忘れられてきたでしょうか？原発の影響が一日も早くなくなるようになってほしい	TPP ホットスポット		食肉小売業
	気温の上昇に伴い店舗での売上げが落ち込む。逆にイベント等の出店は昨年より売上増加	天候の影響 イベント出店 売上増加		菓子・パン小売業

【平成24年7月の業種別業界内トピックス】

	高齢化に対応して食事宅配システムがスタートしたがまだ利益増加まではいっていない 最近の青果物は野菜は入荷減単価安の動き、果実みかんりんご大幅減少高値動向となり、それ以外は入荷増の安値推移し全体的に入荷量の減少、取扱高も大きく減少している。また猛暑が続く需要が減少、併せて学校が夏休みに入ったことも減少の要因になっている。景気上向き要因はないがイベントなどで消費されることを期待して安心安全な生鮮青果物の取引に努めます	高齢化 宅配システム 野菜入荷減単価安 果実入荷減 取扱減少 天候の影響	その他の各種商品小売業 食料・飲料卸売業
	仕入価格の徹底見直しに寄り採算が多少改善され、しばらくは安心としていたが、中東の政情が安定せず原油価格が安定しないだろう。高騰要因にもなりかねない。	仕入見直し 採算改善 原油価格不安定	燃料小売業
	販売価格が依然と低く製造単価を割り込み赤字販売はできず新規は契約とらず売上減少となっている。大手メーカーは採算度外視のようす	販売価格低下 売上減少	一般機械器具卸売業
	温浴事業の水光熱費削減の為、ボイラーガス削減回収虎兇、節電、節水改修工事を行った	水光熱費削減 節電工事	公衆浴場業
サービス	昨年までは7月は宴会等好調であったが、今年は不振 宿泊 競合他社の参入やスポーツ大会を含めた団体客の開催少なく又、ビジネスも弱く稼働、一室単価、売上共に対予算を大きく落とす。放射線の問題でジュニアのスポーツ大会の開催が少なくなったような気がする。宴会は、企業宴会は少なくなったものの製菓、医師会、協会・団体、同窓会等により前年並みの売り上げとなる。	宴会不振 競合他社参入 単価下落 売上減少 放射能の問題 宴会例年並み	酒場・ビヤホール ホテル
	消費税率の引き上げを想定して高額品の購入を計画している人が貯蓄計画をしており、現在のこの買い物は細かいものを買う方向になっている。夏休み需要を期待したが客足が悪い。天候の変化も大きいのか売上も悪い。	消費税引き上げ 貯蓄 夏休み需要 天候の影響	その他の一般飲食店
	法人需要は間際化が続く。個人需要は堅調に推移	個人需要堅調	旅行業
	消費税値上げが近いということが報道されたことにより土地が動きだしました。相変わらず柏市外からのお客様はパタッと止まっています	消費税引き上げ 市外客停滞	不動産管理業
	政治のかじ取りで日本経済や我々の生活はいかようにもなってしまう。国民は今の政治や生活環境に文句を言うだけでなくその原因がどこにあるのかにもっと関心をもって学ぶべき時だと思えます	政治への関心	不動産賃貸・管理業
景気は悪くなる一方。受注単価の低下に寄り仕事をこなしても借金が残る。一部の専門コンピュータ技術者不足で人件費が上がり、便乗して他部門の技術者単価も上がっている状況	景気悪化 受注単価低下 技術者不足 専門職 人件費増加	ソフトウェア業	

### ◎天候の影響

- ・ 早めにバーゲンに入った店ではそれなりの数字をつくったようだ。今後の心配はこの暑さが続くと日中の客足が伸びない事と、残暑が続くと9月の数字が出ず秋物が飛んでしまうこと。 婦人・子供服小売業
- ・ 13日から開催した百貨店のセール第二弾との波及効果や気温の上昇が後押しし、セール商材の消化に繋がった。月末に掛けては店頭をプロパー商品メインに打ち出し、晩夏物の早期実売に結びつけていく。 その他の各種商品小売業
- ・ 気温の上昇に伴い店舗での売り上げが落ち込む。逆にイベント等の出店は昨年より売上増加。 菓子・パン小売業
- ・ 最近の青果物は野菜は入荷減単価安の動き、果実みかんりんご大幅減少高値動向となり、それ以外は入荷増の安値推移し全体的に入荷量の減少、取扱高も大きく減少している。また猛暑が続く需要が減少、併せて学校が夏休みに入ったことも減少の要因になっている。 食料・飲料卸売業
- ・ 夏休み需要を期待したが客足が悪い。天候の変化も大きいのか売上も悪い。 その他の一般飲食店

### ◎受注単価下降

- ・ 例年であれば夏休みに学校の耐震工事の受注が見られるが震災の影響なのか当社の専門工事は全くなくなってしまった。民間の工事については相変わらず材料の納期に問題があり、また受注金額も下がったままのため受けにくい状況にある。 石工れんがタイルブロック工事業
- ・ 7月に入り、ゼネコンからの見積もり依頼が増えている。施工単位が安すぎて業者がないのか、相見積もりは分からないが都内での工事物件は増えている。しかし施工単位は依然値下げを要求されている。採算的にはかなり厳しい状況である。 その他の職別工事業
- ・ 売り上げが伸びているが「利益」出ない。受注単価の下落・外注費増加が大きな原因であるが、現有設備での生産が出来ない物も有り、外注費削減が難しい。 紙製容器製造業
- ・ 景気は悪くなる一方。受注単価の低下に寄り仕事をこなしても借金が残る。一部の専門コンピュータ技術者不足で人件費が上がり、便乗して他部門の技術者単価も上がっている状況。 ソフトウェア業

### ◎節電

- ・ 季節商品の動きはあるが工事関係の予算は厳しい。節電の為の相談が増えた。 電気工事業
- ・ 畳は節電効果があるということで注文が増えつつあります。 内装工事業
- ・ 温浴事業の水光熱費削減の為、ボイラーガス削減回収虎兎、節電、節水改修工事を行った。 公衆浴場業

## 平成24年7月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.8に対し、「CCI-LOBO」が▲21.3で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業・卸小売業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.8で、柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・建設業・卸小売業で、製造業・建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.1に対し、「CCI-LOBO」が▲22.1で、柏のほうマイナス幅が16.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種が悪く、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.5に対し、「CCI-LOBO」が▲15.2で、柏の方がマイナス幅が3.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービスで、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.1に対し、「CCI-LOBO」が▲0.8で、柏の方がマイナス幅が4.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で、柏の方がマイナス幅が2.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業の方が10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業・卸小売業。

# 平成24年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 29.8	 14.2	 11.7	 48.5	 35.2
CCI LOBO	 25.2	 25.8	 18.1	 43.1	 15.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.5	 ±0.0	 11.7	 31.4	 47.0
CCI LOBO	 19.8	 16.2	 13.0	 38.8	 10.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 38.1	 28.5	 23.5	 51.4	 41.1
CCI LOBO	 22.1	 23.5	 17.1	 35.3	 16.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.5	 35.7	 5.8	 22.8	 5.8
CCI LOBO	 15.2	 26.2	 14.3	 7.8	 17.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.1	 7.1	 11.7	 11.4	 5.8
CCI LOBO	 0.8	 1.3	 3.3	 0.8	 4.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.3	 7.1	 5.8	 22.8	 17.6
CCI LOBO	 13.0	 19.8	 9.7	 18.8	 10.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成24年7月13日～20日

調査対象：全国の416商工会議所が3013業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況 業況DIは悪化、先行きへの不安は依然根深い

7月の全産業合計の業況DIは、25.2と、前月から3.9ポイントの悪化。エコカー補助金等の経済対策による下支え効果が弱まっているに加え、超円高や電力不足等を背景に取引先の海外移転・調達が加速していることや、海外経済の減速に伴う輸出減から受注低迷が続く。また、天候不順等により夏物商品が不調だったことに加え、大手専門店(ドラッグストア・ホームセンター等)やコンビニ等が客層を多様化していることから競争が激化し、地域流通業の業況は一段と厳しさを増している。

先行きについては、先行き見通しDIが24.8(今月比+0.4ポイント)と、ほぼ横ばいとなる見通し。欧州の財政金融不安を背景に再び円高が進んでいることに加え、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了による内需の反動減等、先行きへの不安は払しょくできず、好材料に乏しいことから、依然として慎重な見方が続いている。

産業別にみると、業況DIは、サービス業で改善、その他の4業種は悪化。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「生コンや砕石等、被災地での工事に必要な資材価格が上昇」「一般工業業」、「大手企業の設備投資は海外が中心、国内投資は低調なため、受注は厳しい状況」「(一般工業業)、「新設の住宅建設は堅調だが、販売価格は安価に設定されている。そのため、競争せが下請け企業に及んでいる」(建築工業)

【製造業】「中国やブラジル等、新興国向けの油圧機械部品の販売が減少」「油圧機械部品製造業」、「取引先が中国とアメリカに工場を建設し、生産を開始、今後の受注減を懸念」(工作機械等製造業)、「円高により受注が減少。先行きも不透明な状況が続く」(造船業)

【卸売業】「海外調達にシフトすることで赤字を免れているが、取引先のコストダウン要請が厳しく、限界に近

い」(自動車関連部品卸売業)、「販売価格の下落や売上の低下が続く、業績は悪化。価格競争が進む中で、新規の仕事が増えなければ厳しい」(建築材卸売業)、「酒類販売のナショナルチェーンの進出により、地元小売店に大きな影響、それに伴い、自社の売上も減少」(酒類卸売業)

【小売業】「一部の店舗で夏のクリアランスを遅らせただことにより、足並みが揃わず、昨年と比べて盛り上がり欠ける」(商店街)、「ネット通販など、販売形態が多様化し、バーゲンでの集客力が減少しつつある」(着物販売)、「天候不順により客足が鈍い。クールビズや節電関連商品等の夏物需要も少ない」(総合スーパー)

【サービス業】「飲料関係の物流が7月からピークを迎え、好調に推移」(運送業)、「飲食情報サイトを活用したことで好調、経営はかかるものの、売上も大幅に増加」(飲食店)、「7月、8月に開催するスポーツ大会や研修会等での利用が見込まれる」(旅館)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
3月	▲23.9	▲33.6	▲15.3	▲27.4	▲30.0	▲18.1
4月	▲16.8	▲24.0	▲9.5	▲17.3	▲27.5	▲9.6
5月	▲17.5	▲24.9	▲7.5	▲14.0	▲29.3	▲13.8
6月	▲21.3	▲19.1	▲13.7	▲14.5	▲34.2	▲21.5
7月	▲25.2	▲25.8	▲18.1	▲23.6	▲43.1	▲15.6
見通し	▲24.8	▲26.3	▲22.2	▲17.9	▲36.0	▲19.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI